

焼津市議会 自由みらい 行政視察報告書

焼津市議会

議長 村松幸昌 様

視察者 焼津市議会 自由みらい	会長	奥川清孝
	幹事長	吉田昇一
	副会長	村田正春
	副会長・会計	原崎洋一（報告者）

令和 8 年 1 月 15 日～16 日に香川県坂出市と高知県南国市を視察し、その概要について報告する。

1. 坂出市

(1) 坂出市概要

香川県坂出市は、瀬戸内海に面する中讃地域の中核都市で、人口約 5 万人。瀬戸大橋の四国側玄関口として物流・交通の要衝となっている。古くから塩田による製塩業で栄え、現在は化学工業や食品産業が集積する工業都市として発展している。市街地と豊かな自然が調和し、番の州臨海工業地帯や瀬戸内の景観が特徴である。

(2) 防災・危機管理スペシャリスト養成プログラムについて

- ① 危機管理職員と消防本部職員対象の 16 人が専門家等から講義を受けたとのことですが、専門家とはどのような方で、どのようにその方を選んだのですか。報酬はどのくらいでしようかに対して

○大学教授、医師、警察、消防、自衛隊、海保などで研修内容に関して専門性を有する方（この研修を始めた職員と関係性のある方々）

○報酬は基本 1 万円から 3 万円で講師の地位や著名度により変化、その他交通・宿泊費（香川大学とは、包括連携協定を締結しており報酬等は発生しない）

- ② スペシャリストとなった 16 名が、その後 4 年目で再度、講義受講するとのことですが、1 回目と同じ専門家の講義受講ですか、別の専門家ですかに対して

○2 回目の防災・危機管理スペシャリスト養成講座の受講者は、防災危機管理専門研修受講者から希望者などを選定。

○専門家の講師は、1 回目の養成研修時に坂出市防災・危機管理アドバイザーを委嘱しており、2 回目実施時も講師をお願いしている。

- ③ スペシャリストが指導者となって市の職員に危機管理研修をしています。部長含め全職員ですか。会計年度任用職員は対象外ですか。研修は座学のみですか。

○防災・危機管理専門研修の受講者は部長以下全職員が対象（会計年度任用職員は除く）

○研修内容は講義だけでなく、ワークショップや図上訓練なども実施する。

- ④ 研修を住民の防災会役員等に拡大することは考えますか。

○本研修システムは、市の防災力の向上、防災・危機管理体制の強化が目的であり、住民に拡大することは考えていない。防災会などへの研修は坂出市政出前講座や坂出市自主防災組織リーダー研修会を開催している。

- ⑤ スペシャリスト養成から、この方による職員研修の4年間一回りで、課題等はありませんか。

○スペシャリスト職員の負担が大きい。専門家の外部講師もいづれ入れ替える必要があると考えている。

(3) 所感

システムは確立されていますが、運用面での課題が見えてきている。

- ① モチベーションの維持：専門研修直後は意欲が高まるものの、日常業務に追われる中で、手当のない「スペシャリスト」への志願者が増えにくい現状。
- ② 部局の偏り：危機管理課の経験者が中心となっており、建設部などの事業部や、より多様な部局へのスペシャリスト配置が今後の目標。
- ③ 継続的な教材更新：被害想定の見直しに合わせたアップデートが必要。
- ④ 「ラジオの割り込み放送が実際に聞こえるか確認するために訓練を行う」というお話は、いざという時の実効性を何より重視されている証拠だと感じた。また、女性目線の防災（坂出市の防災を考える会）など、多様な視点を取り入れようとする姿勢も、全庁的な防災力向上に不可欠な要素だ。
- ⑤ 焼津市でも参考になる部分は多い。



坂出市議場にて

2. 南国市

(1) 南国市概要

高知県南国市は、高知県中央部に位置し、高知龍馬空港を有する空の玄関口である。人口は約4万5千人。温暖な気候と高知平野の肥沃な土地に恵まれ、施設園芸を中心とした農業が盛んである。土佐国分寺や長宗我部氏ゆかりの史跡など歴史資源も多く、交通・産業・歴史が調和した都市として発展している。

(2) NHK 朝ドラ「あんぱん」での「やなせたかし先生と南国市」について

① NHK および地域間での強力な連携プロモーション

放送前から戦略的なアプローチを行い、単独ではなく「エリア全体」での盛り上げを推進されている。

ア. 三市連携と広報プロデューサーの活用: 南国市・香美市・香南市の「物部川エリア」で連携。NHK の広報プロデューサーを交え、放送前から『あさイチ』などの番組協力を通じて地域を紹介。

イ. 画期的な広報誌の作成: 高知県、NHK、三市が共同で、ファッション誌のようなトーンの特別広報誌（2025 年 4 月号）を作成。Yahoo!ニュース等のメディアでも話題になり、認知度を飛躍的に高めた。

ウ. ドラマ展の開催: 2025 年 4 月から、海洋堂スペースファクトリーなんこくにて開催。有料展示のハードルを乗り越え、ドラマのセット（ジオラマ）と史実（戦争遺産など）を対比させる工夫で、ドラマファンと歴史ファンの両方にアプローチしている。

② 実績効果と観光戦略

ア. 観光客入込数: 令和 7 年度の目標を 58 万 3,000 人に設定。直近では 55 万人弱（達成率約 94%）と、過去最高水準に近い推移を見せている。

イ. 消費額目標: 令和 5 年の約 68 億円から、令和 7 年には約 86 億円への引き上げを目標としている。

ウ. 施設別の動向: 海洋堂スペースファクトリーなんこくは、イベント効果もあり目標の 8 万人達成が確実視されている。一方、既存施設（歴史民俗資料館等）への波及効果については、今後のルート構築が課題となっている。

③ 地元特産品と歴史資源の PR

ドラマをきっかけに、南国市ならではの魅力を再構築されている。

ア. 新商品の開発支援: 令和 6 年度から 1 件 50 万円の補助金を設け、5 件の新商品が誕生（高知県産生姜を使ったパイ、メロンとあんこの帽子パン、ノンアルコール飲料など）。

イ. 歴史とドラマの対比: ドラマの石材店のモデルが実在した場所や、やなせ先生のルーツである「やさしいライオン」のモデル（石像）など、ボランティアガイドによる「街歩き」を通じて深みのある体験を提供。

ウ. ロケ環境とインフラ整備: 臨時観光案内所や駐車場の整備を急遽見直し、受け入れ態勢を強化。これらは将来の図書館建設やロータリー整備といった「都市再生計画」とも連動させている。

④ 住民を巻き込んだ「盛り上がり」の創出

やなせ先生が提唱した「喜ばせごっこ」の精神が、市民活動にも息づいている。

ア. 物部川サポーターと清掃活動: 高校生や地域住民がアンパンマン石像を清掃したり、商店街に花を飾る「おもてなし」活動を継続。

イ. 学校教育との連携: 母校である後免野田小学校の児童が、月に数回、来訪者に学校の

歴史や先生について説明するガイド体験を実施。

ウ. 文化の継承: 「ハガキでごめんなさい」コンクール(22年継続)や、先生が作詞作曲し浴衣まで贈った「生姜音頭」の演舞など、地域固有の文化として定着させている。

(3) 所感

お話を伺い、今後の展望として以下の点が鍵になると感じた。(参考になるところ)

- ① 放送終了後の持続性: 2025年4月からの本放送中にどれだけのリピーターを作れるか、またドラマ展終了後の「物語の聖地」としての見せ方。
- ② 広域 DMO(リレモン協会等)との連携: 関西圏や海外(台湾等)からの誘客において、県や近隣市と連携したプロモーションの深化。
- ③ 歴史資源の統合: 紀貫之や長宗我部氏といった既存の歴史資源と、やなせ先生の物語を「南国市のアイデンティティ」としてどう共存させていくか。
- ④ 焼津市でも参考になるところは少なくないと感じた。



南国市議場にて